

1, 最初の農耕

B.C.8000年ごろ()1の内陸部の高原(標高1000m)で始まる。

┌原生林、草原、野生の()2、大麦の原生地

└温暖湿潤な気候 --- 栽培、家畜化しやすい動物、植物が豊か。

└()3化による耕作の必要。



ザグロス山麓(ティグリス川上流)-----現()4

アナトリア(小アジア) -----現()5

地中海東岸 -----現()6

┌小麦生産可能な年400ミリの()7-- 冬季、春季

└柔らかい()8。

└()9地方(ユーフラテス中・下流域)には降雨がない。

└低気圧は地中海沿いの二重の山脈に遮られる。

└メソポタミア北方の幅100kmの地点にのみ()10あり。

⇒「肥沃な()11」

2, 初期農耕遺跡

()12---現イラク領。 ザグロス山麓、最古の農耕遺跡。

B.C.8000年ごろ。 海拔千メートルの高地。

()13---トルコのアナトリア地方。

()14---ヨルダン・パレスチナ自治区(イスラエル占領下)。

例① チャタル・ヒュユク

トルコのアナトリア地方。()15 千m。 6ヘクタールの居住区。

B.C.6500-5700年ごろ。 最盛期6000-7000人の住民。

日干し()16の家。 密集建物群→ ()17なし。

14種以上の植物 ┌()18---大麦、小麦、エンドウ豆など。

└()19---ナッツ、アーモンド、クルミ、リンゴなど。

家の中に貯蔵用の穀物()20

()21()22⇒肉、乳製品、羊毛を生産。

狩猟--- 猪、鹿、豹。 神殿内に動物の頭、角。 ()23 ⇒狩猟場面を描く。

交易--- ()24、()25を地中海岸から。 石器の材料と装身具の材料。

② イェリコ(エリコ)

B.C. 8000年から。 死海のほとり。()26下250mの低地。 降雨なし。

()27の水に依存。

3, 初期の灌漑農耕

・ B.C.5000年ごろまでに、()29農耕が可能な西アジア各地に伝わる。

食生活が安定 → 人口増加 → ()30開墾・拡大

・ B.C.5000年以降、()31農耕が始まる。(天水での農耕が不能な土地で)

⇒西アジア、アフリカ北部の[]32で農耕が普及。

┌メソポタミア--- ()33川中・下流域。

└エジプト --- ()34川下流域。

B.C.5000年ごろから灌漑農耕開始。

()35原産の大麦、小麦と羊、ヤギ、牛など。

肥沃な()36土。

()37は少ない。

年代測定法

①C14法(放射性()38年代測定法) C14---炭素C12の放射性同位体

有機体中に一定の比率で存在。 死後、C14は崩壊。 半減期()39年。

→()40、貝殻、炭化物、繊維に適用。

6万年より古い場合は役立たない。

②カリウム・アルゴン法 K40---カリウムの放射性同位体

地殻に含まれる。 半減期()41年でアルゴンAr40に壊変していく。

→()42に適用。 100万年より古い年代で有効。

③()43分析法

堆積土中に含まれる古代の花粉による推定。

⇒気候、植生を推定し、年代を確定する。

→()44層などに適用。 花粉量によって遺跡の年代を推定する。

④()45年代法

木、とくに針葉樹の年輪によって時代を特定。 ⇒7000年の年表も作成。

「センベル・セコイア」---()46科の大高木。



ジャルモ遺跡



イェリコ遺跡



チャタルヒュユク出土

- ・骨 ・泉 ・杉 ・倉 ・羊 ・小麦 ・降雨(3) ・花粉 ・土壌 ・沖積 ・農地
- ・年輪 ・鋤物 ・乾燥 ・標高 ・採集 ・栽培 ・道路 ・山羊 ・壁画 ・貝殻
- ・城壁 ・縄文 ・炭素 ・天水 ・灌漑 ・泥炭 ・海面 ・三日月 ・レンガ
- ・ナイル ・イラク ・トルコ ・ジャルモ ・イェリコ ・パレスチナ ・西アジア(2)
- ・フリント ・チャタル=ヒュユク ・ティグリス=ユーフラテス ・5730 ・13億